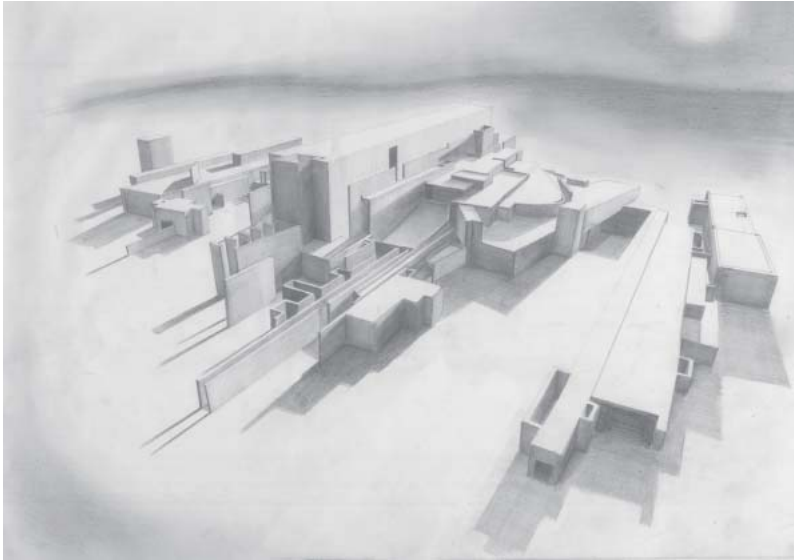




無尺度の世界

滝沢 佑亮 (たきざわ ゆうすけ)

東京理科大学 理工学部 建築学科



無尺度の世界

高密度な都市の中を歩いていると、ふと見上げたビルの高さに都市の強さを感じます。

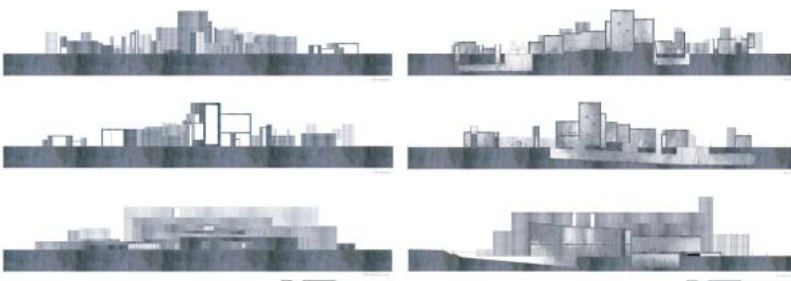
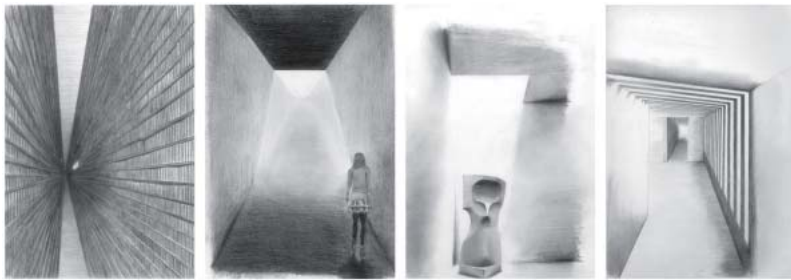
雑多な建物の小道を抜けて見える川の先には雄大な自然を感じます。

生活感あふれるリビングから見える夕日は一段と美しく感じます。

人は、ある小さなスケールの場所から大きなスケールの場所に飛び出したとき、そのダイナミックさに魅力をおぼえ、逆の状況においては繊細な場所により愛着をおぼえます。

わたしは、そんなあらゆるスケールの場所が混在して突発的にあらわれる場所をつくりたい。

そのとき、建築は従来のプログラムや機能によって縛られた寸法、スケールから脱却する必要があると考えます。そのために建築をスケールのない2次元の世界から思考し、そこから、建築としての価値を確立させます。



講評 魅力ある空間への憧れ、そして創りたいという建築家としての感覚が研ぎ澄まされた意欲作である。二次元のコンポジション絵画（マレーヴィチ作）を建築化する試みは、描かれた円を東京湾に臨む展望台と見立てることから始まる。すべての平面幾何学を綿密に分析し、展望台との関係性のなかで、それぞれの空間性、視線の通り方、光の入り方などを決めていく。結果として「尺度」がある。

この手法そのものを実作に応用することは難しいが、スタディを通してつかみ取った創る感覚や手ごたえは、きっと次への大きな財産となるだろう。高い評価の一方、多数票を集めきれなかったのは、絵画に忠実な全体像に残る生の硬さもさることながら、都市の新たなコンテクストを創り出す主張と今回の設計手法との関係性がわかりにくかったからか。

自分の意図を正確に伝えることの難しさもまた建築家の宿命であり、進化や成長はその克服への努力とともにあると考えたい。

（審査員：柳瀬 寛夫）